

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079800191		
法人名	社会福祉法人 福智会		
事業所名	グループホームふくち		
所在地	福岡県田川郡福智町弁城4193-28 (電話) 0974-22-2101		
自己評価作成日	令和 元 年 9 月 17 日	評価結果確定日	令和 2 年 1 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりの生きがい作りは長年の目標ですが、利用者の高齢化で体調変化により、今まで出来ていたことが、出来なくなってくる事が増えてきました。現在、17名中1名の方が100歳 90歳代が10名であります皆さん元気に過ごされていますが、今まで通りの一人ひとりに合った生活、生き方を模索しながら、全体での活動に重点を置くようにしています。個別でのショッピング、バスハイク等の外出支援や毎月の“ふくちの日”“畑の日”も地域交流として定着してきています。身近な地域の老人会の皆様や民生委員の方々の参加して頂ける事により、地域のホームとして皆様に親しんで頂けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www. kai gokensaku. jp/
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 元 年 10 月 9 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、福智山の望む緑豊かな地域に特別養護老人ホームと併設し立地している。
 利用者はゆったりとした環境の中で職員とともにできることを行いながら安心して暮らされている。毎月、「ふくちの日」や「畑の日」のイベントなどが催しがあり、地域の方も足を運ばれている。利用者は地域の方とも顔馴染みの関係にあり、楽しみの一つとなっている。
 職員は、利用者が重度化する中でもその人らしく生活ができるよう日々模索しながら懸命に取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人権尊重」「能力発揮」「地域交流」の3本柱から成り立っている。実践のために年度目標を定め職員と共に、日々のサービス提供に努めている。	事業所の理念は「人権尊重」「能力発揮」「地域交流」の3つから成り立っている。職員はそれぞれ毎年度、理念に基づき目標を立て仕事に取り組んでいる。日頃管理者を中心に理念の実践がなされるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、神幸祭は毎年地域の子供会の獅子舞が毎年来園される。2年に1度地域の山笠が来園。保育園の慰問や小学校から運動会の招待もある。月に1~2回の畑の日には老人会の方やボランティアが参加される。	町内会には加入していないが、清掃などの地域活動や夏祭りなどの地域行事に参加している。また、事業所主催の「ふくちの日」や「畑の日」のイベントが定例となっており地域の老人会の方が足を運んでいる。事業所と地域と良好な関係が築かれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の窓口になっている“ふくちの日”に民生委員の方に参加して頂き、ホームの内容や利用者の方を知っていただくようにしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容については、前向きに対応しサービス向上に努めている。	運営推進会議は2月に1回開催している。利用者、家族、地域包括センター職員、老人会代表、福祉事業関係者が参加し、事業について報告やサービスについて意見交換を行っている。認知症高齢者の外出や身体拘束の現状などについて議論されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行いながら連携をとっている。	近隣のグループホームと協議会があり、その中で行政担当者と密接な関係づくりができています。日頃手続きに伺った際、事業所便りを配布するなど良好な関係づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設同様に拘束廃止検討委員会を設け、身体拘束や言葉の拘束だけではなく、青アザの発生状況についても観察し青アザや予防できるように取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を設置している。身体拘束廃止や虐待防止について、日頃から言葉のかけ方や身体の痣など注視している。現在、身体拘束に該当する事例はなく、利用者の外出についても職員が適時、付き添いを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	拘束廃止検討委員会を設置し、様々な角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について話合っている。	権利擁護に関する制度については、利用開始時に法務省が発行しているハンドブックを活用し説明を行っている。また、制度について理解を深めるために講師を招き内部研修も行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表、家族代表に出席して頂き、運営に反映させる努力をしている。また、家族の面会時に、意見や提案などを確認しサービス提供に反映している。	日頃から利用者、家族の意見をくみ取るようにしている。運営推進会議や家族会を通じて様々な意見に耳を傾けるようにしている。また、ボランティアや老人会の方々も来所持、利用者へ声掛けいただいております。その中で挙げた意見についても必要に応じて運営に反映させるようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会も作り職員と様々な問題についても話し合っている。必要に応じて個別でも話し合いを行っている。	管理者は介護現場へ出向き、職員とのコミュニケーションを積極的に図るようにしている。また、個別の面談や介護主任を通じて意見を取り上げるように努めている。職員は、行事やフロアの飾りつけを持ち回りで担当したり、各委員会に所属し、それぞれの立場で意見や提案ができるようになっている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、職員個々に応じた職務目標設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心を持って働けるように環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢・性別を問わないようにしている。職場では職員の特性に応じた役割分担を心がけ、基本方針として定年まで働けるようにしている。	職員は20歳代から60歳代まで幅広く採用されている。また、性別も問わず選考することとなっている。職員育成や昇進などにおいては公平性に注意して、働きやすい環境に心がけている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにしている。利用者の尊厳に対する人権等の啓発活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼等を通じて行っている。	人権教育については、年1回程度、内部研修の機会を設けている。職員は受講し、理解を深めるようにしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入している。職員1人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を管理者、職員面談の上で決定し年間を通し目標達成に取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービス向上を取組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、本人様やご家族が安心して話の出来る環境作り、困っていることや不安、要望等に傾聴していく事で、本人様が置かれている状況を理解するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、これまでのご家族様の苦労を労い、入居希望に至った経緯等に傾聴するようにしている。その上で、御家族の立場に立ち共に協力し合っで行ける関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴や会話の中から、出来る事と得意なことは本来の力が発揮できるように支援し、居室の清掃、食事の後片付け、洗濯物干し、畳み、買い物なども共に歩いていくように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ、面会に来て頂くように声掛けを行っている。特に、誕生日会、夏祭り、家族会、敬老会等の行事には、参加していただけるようにしている。遠方の御家族の方には電話や便りにて、状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人にとっての関係が深い方が、気兼ねなく訪問できるように心がけ、また利用者の生活地域の交流に参加し、知人や友人との関係が途切れないように支援している。	入居時のアセスメントや家族からの情報を把握するようにしている。入居後も友人との付き合いを継続できるよう家族と協力をして同窓会に出席したケースもある。事業所として馴染みの関係を大切にしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用者同士の関わりが深まるように、居室で過ごす事を極力控え、食堂や廊下ソファー等で過ごせるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり併設施設への移転されても面会に行ったり、ご家族とも連絡を取り合い訪問する機会を設けたりして、より良い人間関係を保っていただけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活、職歴、病歴、生きてきた足跡等で見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心がけている。	その日、その時の心身の状態、状況に配慮しながら本人の趣味や嗜好、馴染みの関係など入所以前からの話もしながら、信頼関係の構築や思い、意向が遂げられるような雰囲気作りに努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様との関わりの中で生活歴、暮らし方、生活環境を把握しサービスに提供していくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調、気分の変化を確認しながらサービスを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望を聞き取ったあとに、計画作成者が中心となり、カンファレンスにて協議し、本人様、ご家族様の意向に基づいた利用者本位の計画を作成している。	計画書に添った内容でのサービス提供及び、3ヶ月毎のモニタリングもなされている。生活課題に食事面や咀嚼、嚥下などの問題があれば、主治医や歯科医などからの直接指示も聞き、聞いた処方の内容の還元もなされている。また、家族や担当職員からの気づきや希望などあれば盛り込まれ、更なる「質」の向上に努めている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	Ipadに個々の食事、水分、排泄、バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を入力し記録している。Ipadで全利用者のデータが見れるので、朝礼・終礼の際に申し送りを行い職員間で共有し継続したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じご家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行ない安心して生活が送れるように心がけている。また、ショッピング・バスハイク等を導入している為、個々の要望に応じた対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し行政、地域福祉関係者より助言を頂き日々のサービス提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には継続し医療が受けられるようにしている。	通常、行われる定期受診は、ホームの職員が同行し、新たな医療機関や検査を要する様な受診の際には基本、家族の付き添い受診がなされている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師、協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院側に本人の特徴、生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能低下に配慮しながら、主治医、担当ソーシャルワーカーご家族と情報交換を行い早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、ご家族の希望を重視し今後の方針について、ご家族、主治医と連携をとりながら検討している。	重度化などに対し、法人本体が作成した方針を共有している。また、日中に状態、状況の変化についても、確実に夜勤者に引き継ぎが行われ、情報共有が図れている。更に、医師との連携のもと、状況変化に応じた対応がなされている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練、誤嚥時対応を年に1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全体に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加や老人会の方々にも参加を促し、消防署の協力も得て定期的に、日勤・夜勤帯における訓練を実施。訓練を通して問題点の洗い出しを行い、利用者の命を守る対策向上に繋げている。併設の施設との協力体制も構築している。	原則、年2回以上の訓練が行われている。訓練を行う際も、事前に近隣住民（老人会等）には周知を行い、協力してもらえる住民がいれば、都度の参加をお願いしている。また、非常用の備蓄品についても、レトルトカレー、お米、カップ麺、飲料水等が準備されており、その他、懐中電灯や毛布など3日以上での備えが保管されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室にいる時や排泄、入浴時は特にプライバシーに配慮した同姓介助を基本としている。言葉かけには、尊厳を傷つけないように配慮している。	プライバシーの確保として、問題ごとや不手際など個人に関する相談は、必ず相談室での相談を受けている。また、入浴前後や排泄中は、プライバシーの保護に配慮した取組みがなされている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思が出せるような声掛けを意識している。外出時や入浴時間の選択、行事食のメニュー、ショッピング、ドライブ、散歩等については希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で過ごす事を好む人、煩わしいと感じる方がいる為、一人ひとりの思いに合わせての行事参加を促したり、したいことを選択が出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや、白髪染めを行っている。男性は、毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じてメイク、ネイルを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食形態を考慮したり好みによるパン食や行事食のメニュー等に配慮している。食事の準備、調理、盛り付け配膳、下膳、後片付けも無理のない範囲で手伝ってもらっている。	足腰がしっかりし、「歩く」、「立ち続ける」が出来る利用者は、玉ねぎなど野菜の皮を剥くなど、職員と一体となった調理がなされている。また、専任の栄養士も在職しており、食事の摂取量や味付けなどに気が配られている。更に、同一敷地内、裏の畑には家庭菜園もあり、オーガニック野菜が収穫され、調理に使われている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は、食材業者が行っている。アルブミン値を定期受診で測定し栄養状態を把握している。毎日の食事、水分（水分の種類）摂取量を i p a d に入力し、日々の栄養管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアは習慣化している。利用者の方の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。義歯使用者は、有職後に預り、義歯洗浄剤を使用し洗浄、除菌をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し定期的にトイレの声掛け、仕草や表情から判断し誘導を実施している。リハビリパンツや紙おむつ、尿取りパットを使用しないで済むように支援している。	排泄表等を用いて、排泄パターンを把握している。入居者の方の表情等から、排泄タイミングを計り、随時、トイレの声掛けを行っている。その方の尿量に応じたパットを利用している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の形態や排便間隔を i p a d に記入し水分摂取量を確認しながら把握している。腹部のマッサージや体操を行ないながら便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、入浴が行なえる様に支援している。希望時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。	基本、毎日入浴の機会がある。体調により看護師にも相談している。入浴の際には、洗身、洗髪介助もなされ、皮膚の状態も確認している。更に、入浴を拒否される利用者に対しては、目の視点を換え直接、浴室には行かず、違う場所などに誘導し、気が変わる様な誘導法を取り入れている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	極力、薬を服用せず安眠できるように心がけている。本人が眠くなったら眠るようにしているが、寝つきの悪い時や不穏時には、和室を利用したり、お茶やホットミルク等を提供し会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は、プレート、名前、顔、日にち、朝・昼・夕の確認を行い、飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合には状態を細かく観察し変化があれば受診を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、得意なことや興味があることを引き出して、日々の生活に楽しみや気分転換の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく本人の希望により個別ショッピングに行かされている。季節の花見学や、その時々に応じている。	同様な外出でも、基本、外食以外は職員が同行した買い物や散歩がなされている。また、普段では行けない場所やお寺の法要など3、4人の希望を聞いて、職員が同行している。法人が所有するマイクロバスで毎月、1回は買い物に出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能の方には、自己管理をしてもらっている。出来ない方には、ショッピング等で、お金を手渡し支払いができるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定や定期的に写真やふくち便りを家族に送り利用者様の様子がわかるようにしている。電話をかけたい場合は、自由にかけてもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい食堂、ウッドデッキがあり日中、日差しが強い時は、レースやカーテンや日よけで遮断している。喚起には配慮し、トイレの尿臭などしないようにこまめに清掃している。	共用空間はいたるところにソファを設置しくつろげるよう配慮がみられる。また、畳の和室も自由に使用され利用者は思い思いに過ごされていた。共用部においているテレビの音量なども程よい音量に設定している。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ、玄関ベンチ、和室、食堂などそれぞれ思い思いの過ごし方出来るように場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、思い出の品、馴染みの品、季節の花やレクリエーションで造った作品等を、居室に飾り置くことで、安心感や居心地の良さを見て感じたりしてもらえているようにしている。	筆筒や椅子など以前、住まっていた自宅等から自室へ持ち込まれていた。また、集団生活のため、もの静かな環境に対しても配慮もなされ、食堂のテレビはなるべく音量を下げ、個室のテレビはイヤホンで聞く様に支援がなされている。更に、日照が激しければよしずやカーテンなど過ごしやすい環境に整備されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーになっている。必要箇所には手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマットを使用した浴槽がある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人権尊重」「能力発揮」「地域交流」の3本柱から成り立っている。実践のために年度目標を定め職員と共に、日々のサービス提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、神幸祭は毎年地域の子供会の獅子舞が毎年来園される。2年に1度地域の山笠が来園。保育園の慰問や小学校から運動会の招待もある。月に1~2回の畑の日には老人会の方やボランティアが参加される。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の窓口になっている“ふくちの日”に民生委員の方に参加して頂き、ホームの内容や利用者の方を知っていただくようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容については、前向きに対応しサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行いながら連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設同様に拘束廃止検討委員会を設け、身体拘束や言葉の拘束だけではなく、青アザの発生状況についても観察し青アザや予防できるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	拘束廃止検討委員会を設置し、様々な角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について話合っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表、家族代表に出席して頂き、運営に反映させる努力をしている。また、家族の面会時に、意見や提案などを確認しサービス提供に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会も作り職員と様々な問題についても話し合っている。必要に応じて個別でも話し合いを行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、職員個々に応じた職務目標設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心を持って働けるように環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢・性別を問わないようにしている。職場では職員の特性に応じた役割分担を心がけ、基本方針として定年まで働けるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにしている。利用者の尊厳に対する人権等の啓発活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼等を通じて行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入している。職員1人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を管理者、職員面談の上で決定し年間を通し目標達成に取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービス向上を取組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、本人様やご家族が安心して話の出来る環境作り、困っていることや不安、要望等に傾聴していく事で、本人様が置かれている状況を理解するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、これまでのご家族様の苦労を労い、入居希望に至った経緯等に傾聴するようにしている。その上で、御家族の立場に立ち共に協力し合っで行ける関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴や会話の中から、出来る事と得意なことは本来の力が発揮できるように支援し、居室の清掃、食事の後片付け、洗濯物干し、畳み、買い物なども共に歩いていくように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ、面会に来て頂くように声掛けを行っている。特に、誕生日会、夏祭り、家族会、敬老会等の行事には、参加していただけるようにしている。遠方の御家族の方には電話や便りにて、状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人にとっての関係が深い方が、気兼ねなく訪問できるように心がけ、また利用者の生活地域の交流に参加し、知人や友人との関係が途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用者同士の関わりが深まるように、居室で過ごす事を極力控え、食堂や廊下ソファー等で過ごせるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり併設施設への移転されても面会に行ったり、ご家族とも連絡を取り合い訪問する機会を設けたりして、より良い人間関係を保っていただけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活、職歴、病歴、生きてきた足跡等で見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心かけている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様との関わりの中で生活歴、暮らし方、生活環境を把握しサービスに提供していくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調、気分の変化を確認しながらサービスを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望を聞き取ったあとに、計画作成者が中心となり、カンファレンスにて協議し、本人様、ご家族様の意向に基づいた利用者本位の計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	Ipadに個々の食事、水分、排泄、バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を入力し記録している。Ipadで全利用者のデータが見れるので、朝礼・終礼の際に申し送りを行い職員間で共有し継続したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じご家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行ない安心した生活が送れるように心がけている。また、ショッピング・バスハイク等を導入している為、個々の要望に応じた対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し行政、地域福祉関係者より助言を頂き日々のサービス提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には継続し医療が受けられるようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師、協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院側に本人の特徴、生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能低下に配慮しながら、主治医、担当ソーシャルワーカーご家族と情報交換を行い早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、ご家族の希望を重視し今後の方針について、ご家族、主治医と連携をとりながら検討するようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練、誤嚥時対応を年に1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全体に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加や老人会の方々にも参加を促し、消防署の協力も得て定期的に、日勤・夜勤帯における訓練を実施。訓練を通して問題点の洗い出しを行い、利用者の命を守る対策向上に繋げている。併設の施設との協力体制も構築している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室にいる時や排泄、入浴時は特にプライバシーに配慮した同姓介助を基本としている。言葉かけには、尊厳を傷つけないように配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思が出せるような声掛けを意識している。外出時や入浴時間の選択、行事食のメニュー、ショッピング、ドライブ、散歩等については希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で過ごす事を好む人、煩わしいと感じる方がいる為、一人ひとりの思いに合わせての行事参加を促したり、したいことを選択が出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや、白髪染めを行っている。男性は、毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じてメイク、ネイルを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食形態を考慮したり好みによるパン食や行事食のメニュー等に配慮している。食事の準備、調理、盛り付け配膳、下膳、後片付けも無理のない範囲で手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は、食材業者が行っている。アルブミン値を定期受診で測定し栄養状態を把握している。毎日の食事、水分（水分の種類）摂取量を i p a d に入力し、日々の栄養管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアは習慣化している。利用者の方の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。義歯使用者は、有職後に預り、義歯洗浄剤を使用し洗浄、除菌をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し定期的にトイレの声掛け、仕草や表情から判断し誘導を実施している。リハビリパンツや紙おむつ、尿取りパットを使用しないで済むように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の形態や排便間隔を i p a d に記入し水分摂取量を確認しながら把握している。腹部のマッサージや体操を行ないながら便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、入浴が行なえる様に支援している。希望時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	極力、薬を服用せず安眠できるように心がけている。本人が眠くなったら眠るようにしているが、寝つきの悪い時や不穩時には、和室を利用したり、お茶やホットミルク等を提供し会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は、プレート、名前、顔、日にち、朝・昼・夕の確認を行い、飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合には状態を細かく観察し変化があれば受診を行なっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、得意なことや興味があることを引き出して、日々の生活に楽しみや気分転換の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく本人の希望により個別ショッピングに行かされている。季節の花見学や、その時々に応じている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能の方には、自己管理をしてもらっている。出来ない方には、ショッピング等で、お金を手渡し支払いができるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定や定期的に写真やふくち便りを家族に送り利用者様の様子がわかるようにしている。電話をかけたい場合は、自由に掛けてもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい食堂、ウッドデッキがあり日中、日差しが強い時は、レースやカーテンや日よけで遮断している。喚起には配慮し、トイレの尿臭などしないようにこまめに清掃している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ、玄関ベンチ、和室、食堂などそれぞれ思い思いの過ごし方出来るように場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、思い出の品、馴染みの品、季節の花やレクリエーションで造った作品等を、居室に飾り置くことで、安心感や居心地の良さを見て感じたりしてもらえるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーになっている。必要箇所には手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所、滑りとめマットを使用した浴槽がある。		

項目番号		項目	取り組みの成果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない